

JOMA通信



Japan Overseas Missions Association 海外宣教連絡協力会 公報

No. 81号

要配慮環境での働き

「ヨウハイリョカンキョウ? なに、それ?」そう訝られるのも無理はありません。実は「要配慮環境」は不肖私が勝手に作った造語なのです。新ミレニアムに入った頃、世界の宣教関係者が“closed countries/nations”(クリスチャンによる公の伝道や集会は禁止、秘密裡にでなければ礼拝できないような、「閉じている国・民」)への宣教について試行錯誤する中で、宣教師に対しては閉じていても、福音に対して閉じているわけではないという認識、「閉じている＝宣教不可能」と考えるよりも、入る方法を工夫するという積極的な発想から、“closed…”の代わりに“creative access countries/nations”(クリエイティブな方法でなら福音を携えてのアクセスが可能な国・民)が使われるようになっていました。今から10年程前、この言葉の端的な訳語に窮した私は、思い切った日本人的発想の転換から、「要配慮環境」という一見意味不明な言葉を“creative access…”の代用として使い始めました。「なに、それ?」と思われた方は、「宣教への抵抗があり、公に宣教することは困難だが、アクセス方法・アプローチ方法を工夫してキリストを伝えられる・伝える必要のある国・民」といった意味とご理解下さい。

さて、「要配慮環境」といっても、思想・信条が徹底的に管理され、キリスト信仰が事実上禁じられている国、国民の宗教の自由は認めているが、外国からの宣教目的の入国・滞在を許さない国、法的に宗教の自由が保障されていても、多数派宗教からの圧力が日常的にあり、キリスト信仰を選ぶ・広める・生きることが困難な環境、宣教を「自由な他者の宗教・信条を改宗させる行為」として法律で禁じる国等、様々です。そして、そのような制限をかける国や民族グループは増加傾向にあります。その背景には、1)近年宣教に比較的寛容になってきた国での、クリスチャンの急激な増加への反動、2)個人の権利の絶対化から、信仰を問うことの拒否、3)グローバル化・価値観の多様化が進む中で、国民・民族共通のアイデンティティーとしての伝統的思想・宗教の、国策による復古、4)原理主義思想の影響による多数派宗教の先鋭化等があると考えられます。

例えば、日本の隣国では、今年3月から宗教活動への政府の監視と統制が厳しくなり、公認教会以外は従来のような形での継続は困難となっているそうです。また、宣教師としては入れない、南アジアの某国では、古来の多数派宗教の

アンテオケ宣教会 主事
2018年度JOMA専門委員
松崎 ひかり



原理主義を標榜する政党が政権を握って以来、キリスト教会への嫌がらせや暴行の件数が増え、伝統宗教に基づくアイデンティティー強化のために、学校の教科書の改訂を始めているとのことです。その国の北にある別の国では、この8月半ばから罰則を伴う改宗禁止法が施行されました。この3つの国はどれも、近年キリスト信者が著しく増加しているところです。

そんな環境で有効な宣教戦略は、価値観の対立を招き、自己満足で終わるような「対決型」のアプローチや、可視化・数値化できる成果主義ではなく、愛を持って真理を語れる信頼を得るまでの、時間をかけた地道な人間関係づくり、「真の救いの道を教えてあげよう」ではなく、「あなたの信じているもの、大切にしていることを教えて下さい」という教わる姿勢。そして、その地に入って留まり、現地の人と生活を共にするために有効な、職業や専門技術、芸術やスポーツ、日本の伝統文化、アニメ、ゲーム等の趣味や食文化、あるいは留学生という立場の活用。世界的に受けが良く、対立を好まず、チームワークができる「日本人であること」や、どこへでも行ける日本のパスポートは、要配慮環境向きと言っても過言ではないでしょう。

最後に「誰の何に配慮するのか」。福音の浸透を拒む勢力の強い地に遣わされている働き人は、自分のリスク回避のためだけでなく、リスクを負いながら信仰を守っている現地の兄弟姉への配慮、そのような環境で工夫しながらみ国の働きをしている他の同労者への配慮から、偽名を使用したり、時にはあえて表立った交わりを避けたりすることもあります。また、多くの支援を必要としながら、場合によっては具体的な地名や人名の入った報告ができない、ネット上に情報を拡散できない、わかりにくい隠語を使う必要があるなど、派遣元の支援者に現地状況をよく知っていただく事も容易ではありません。今自由な日本で信仰生活を送る私たちには、その自由のない地で、時に命懸けで主に従っている兄弟たち、そこに遣わされている働き人、例えばJOMAの宣教師一覧に名前や写真の掲載されていない方々とその特殊事情の理解に努め、祈りに覚えることが、大切な「配慮」かもしれません。

チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部 部長 関 昌宏

チャーチ・オブ・ゴッドは米国人宣教師であるレイモンド・シェルホン師によって1951年に神奈川県川崎市でスタートした群れです。現在国内に13教会があります。宣教師によって始められた群れとして、国内のみならず国外にも福音を伝えていきたいとの祈りをささげてきました。神様は山形県出身の阿部和子師に国外宣教のヴィジョンを与えてくださり、様々な準備の後1981年に群れとして初めての宣教師を派遣しました。それは教団創立30周年記念事業の一環ともなりました。私たちの群れにはアメリカに交わりを持つ教会がありますが、そこから先に宣教師が派遣されていたメキシコの田舎町に阿部宣教師を送り、共に働きを始めました。しかし宣教師が第一期の働きを終えて帰国すると、その後の働き場とミニストリーに関して都市での教育宣教という方向に導かれていることがわかりました。幸い同僚者も与えられて、第二期からはメキシコ第二の都市であるグアダラハラに働きの拠点を移して今日に至っています。



クリスチャンスクールの学生大会

グアダラハラでは教会を形成するとともにクリスチャンスクールを行っています。メキシコはローマカトリック教会が強い国で、グアダラハラ市内にも至る所に大きな聖堂があります。しかしみことばが人々の心に届いているとはいえず、また貧富の格差も激しいなかで盗難は日常茶飯事、誘拐や人身売買、麻薬に絡む犯罪、銃撃等が後を絶ちません。こうした社会の現実を見ると、やはり幼い時からのキリスト教教育が欠かせないという観点から米国のACEによる学校を設立して多くの卒業生を輩出してきました。またプロテスタントの宣教師ということでビザを取得することは困難ですが、教育者ということなら道が開けるといってもあります。設立した学校では、聖書を知識として学ぶことに留まらず、キリストを知り、心を変えられ、神と人にと仕えるという姿勢の身についた者たちを送り出していくことこそ、メキシコを変えていくことにつながるの確信を持って励んでおります。学んだことを実際に生きるために、メキシコ国内の貧しい人々が暮らす地域へ援助宣教に出かけたこともあります。



身障者の方々のキャンプ

また毎年身障者のキャンプが行われていますが、そこに青年たちを送っています。彼らはその参加費を出す事が困難な経済的に苦勞している家庭の子供たちです。そのためそれぞれ参加費を少しでも工面しようと、教会員の車を洗わせて頂き、資金集めをしています。「貧しければ人にしてもらって当たり前」という考えを持つ人がいるメキシコです。雀の涙ほどの資金かもしれませんが、「小さい事に忠実に」と洗車に参加した若者たち全員が喜びの靈に満たされて働く事が出来、この機会を与えてくださった主と教会に感謝しました。

今日ではメキシコ国内にいくつものクリスチャンスクールが設立され、学生大会も持たれています。グアダラハラの学校はその中心的な存在として用いられています。また日本でも教会が設立するクリスチャンスクールや、ホームスクーリングが行われるようになりました。その中でACEのシステムを用いている学校の指導や助言の為に阿部和子宣教師が用いられるようになり、現在は年に2回ほど帰国して日本国内のクリスチャンスクールとその先生方を励ましています。



車を洗う若者たち

時の経つのは早いものでチャーチ・オブ・ゴッドの群れが創立70周年を迎える2021年には、メキシコ宣教を開始してから40年が経過することになります。幸いグアダラハラ教会や学校のスタッフも整えられつつあり、次代を見据えたメキシコ宣教のあり方を祈りの内に思い巡らす昨今です。

在欧日本人宣教会

運営委員長 永井 敏夫

37万人がヨーロッパに

2017年10月の政府の統計によると、約135万人の日本人が海外に滞在または居住しています。(資料:2018年度版海外在留邦人調査統計。資料に提示された数字を本稿では四捨五入)

その内、長期滞在者(三か月以上の海外在留者でいずれ日本に帰国するつもりの方)が約87万人、永住者(生活の本拠を海外に移した邦人)が約48万人いるそうです。JOMA通信の読者のみなさんの中には、親戚、知人、友人が海外におられるという方もいるでしょう。前述の統計資料によると、ヨーロッパには、約37万人が暮らしているとあります。(長期滞在者が約15万人、永住者は約22万人。群馬県高崎市の人口とほぼ同数)

イギリスからフランス、そしてドイツへ

在欧日本人宣教会(英語名:Japanese Outreach)は、ヨーロッパに滞在または居住している日本人にみこばを伝えている諸教会をサポート役として存在しています。1995年(発足時は在英日本人宣教会)、まずイギリスに宣教師を派遣することからスタートし、その後、フランスのパリに宣教師を派遣しました。現在は、安藤廣之師・里佳子師ファミリーを、ミュンヘン日本語キリスト教会の牧師・伝道師として派遣しています。

ヨーロッパにある教会を覚えて

私たちが把握できているだけでも、ヨーロッパでは40を超える場所で、日本語による礼拝がささげられています。1970年代位からヨーロッパ各地に日本語集会や教会が興されはじめ、ドイツとイギリスにはそれぞれ10を超える群れがあります。またアイルランド、ベルギー、オランダ、スイス、オーストリア、チェコ、ルーマニア、フランス、スペイン、イタリア、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、そしてデンマークにも、ひとつ以上の群れが存在しています。(詳細については在欧日本人宣教会までお問い合わせください)



欧州宣教祈禱会を終えて

宣教祈禱会そしてキリスト者の集い

私たちは、まず祈りをもってヨーロッパの諸教会に繋がっています。年に4回宣教祈禱会を催し、ヨーロッパの諸地域から送られてくる感謝と課題をもとに、ひとつひとつの群れを覚えて祈りを積んでいます。今年の8月には第35回ヨーロッパキリスト者の集い(イギリス・エジンバラ)に6名(安藤師ご夫妻を含む)が参加しました。そこでは、宣教祈禱会で祈りに覚えている方々とお目にかかり、また交わりと祈りの機会が与えられました。今回初めて参加した私はとても新鮮な思いに包まれ、本当に幸いな四日間を過ごしました。→europetsudo.netには、今回をはじめ今までの数々の映像や記録が収められています。



第35回ヨーロッパキリスト者の集い(エジンバラ)

日本に帰ってくる方々との繋がり

ヨーロッパから日本に帰国する方々から、また日本に送り出す教会から、教会の問い合わせがあります。また、ヨーロッパに出かけていく方々に教会を紹介するお手伝いをしています。これらの方々が、主イエスキリストに出会い、交わり、教会に繋がって歩んでいけますようにという祈りながら関わっています。さらに首都圏では複数の会場で「ブルーベルの会」が開かれ、聖書の分かち合いと祈りそして交わりの場が提供されています。

「日本」と世界との繋がり

前述のヨーロッパの日本語で礼拝する群れに加え、アジア、アメリカ、オセアニア、アフリカにも日本語の群れは存在します。私たちは、まずヨーロッパの教会そして世界の日本語教会と繋がりながら、「日本」にある教会がさらに世界の日本語教会(集会を含む)の存在に目を留め、地域の内外で互いに繋がっていける関係になることを願って歩んでいきたいと思います。

また「日本」には、名古屋市の人口を超える約240万人の外国人が滞在、居住をしています。日本各地では、さまざまな言語による礼拝がささげられています。「日本」の教会が、日本に存在する外国語で礼拝をする人たちと、さらに繋がっていきますように。

「活動するJOMA」に向けて

私が、事務局に奉職してから1年。皆様のお祈り・ご協力に感謝申し上げます。

この1年の間、日常の業務と総会、3回のJOMA通信編集を経て、様々な海外宣教の働きにも触れさせていただき、また、JOMA加盟各団体・各教団のお働きについてや、JOMAの歴史、財政状況についても学ばせていただきました。特に、派遣宣教師一覧を作らせていただいた時には、宣教の最前線で働いておられる宣教師お一人お一人のお写真を配置しながら、その背景に写りこんでいるわずかな景色などを見てご活動に思いを巡らし、祈りながらの作業でした。その中には、今号の巻頭言にもありますように、お写真が掲載できず、お名前すら掲載することもできない、そういった「要配慮環境」においても戦っておられる方々もおられることも、身近に知ることとなりました。

そのような日々にあって、私は、そんな最前線の方々の為にJOMAとして何ができるかと、考えるようになりました。1つには、無論このJOMA通信の発行です。これは、宣教地の皆様のお働きについて、互いに知り、祈り合うための重要な手段・ツールです。しかし、より直接に宣教の地にある方々のお役に立つようなこと、それも、JOMAだからなしえる活動はなんだろうかと考え、JOMA役員会でもご相談を重ねてきたのです。

JOMAの強みの1つは、複数の教団・団体で構成されているということです。すなわち、地域的に、あるいは文化背景的に1つの教団では強い・弱いがあるとしても、それをネットワーク化することで、ある程度その偏りをカバーし、知恵や知識を戦いのために共有していける体制です。

その強みを活かす活動として、役員会、総会を経て今年度の2つの活動から始めることになりました。1つは、12月6日（木）に日本から宣教の地に向けてライブ・ネット配信を行う賛美コンサートです（P.6 世界宣教関係イベント情報案内記事参照）。もう1つは、いくつかの宣教先をインターネットの会議システムで繋ぎ、互いの声やご意見などを共有していただくような形での「JOMA 宣教セミナー」の開催です（下欄参照）。

逆に、JOMAの課題は財政です。現在は事務局員の週に1日程度の勤務を賄う事すら困難な状況です。ですから、事実上ほとんどコストをかけずに可能な、インターネット等のICTを利用したネットワーキングは、まさにJOMAに向いていると言えるかもしれません。このような形で、より宣教の地に直接届き、宣教師方の戦いに直接お役に立つ活動を、より拡大していければと存じます。

「heathen（異国・異教の地）」という単語があります。語源は「heath（ヒース＝イギリス等の田舎の荒地に生える雑草）が生えるような僻地」の意味だとか。「unto heathen（地の果て果てまで＝諸国の民に）」神様を伝える方々の為に、お役に立てる「活動するJOMA」でありたいと願っています。

「彼は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大河から地の果てに至る。」ゼカリヤ書9:10

2018年10月 JOMA事務局 主事 大間 哲

JOMA宣教セミナーのお知らせ

JOMAでは、2019年1月17日（木）に、「**宣教地の声を繋ぐ**（仮題）」と題して、宣教セミナーを行います。これは、ネット会議システム「Zoom」を用いて、実際に宣教地にある宣教師方何名かと主会場を結び、現地の生の声を教えていただくと同時に、宣教師方同士もお互いの実情や、ご意見、課題などを率直に共有し、祈り合い、解決策を模索するということを目指します。

日時：2019年1月17日（木）14:00-17:00 （開場 13:30 予定）

主会場：聖契神学校 チャペル 目黒区中目黒 5-17-8

（東急東横線 祐天寺駅 歩13分、又は 目黒駅より東急バス 三軒茶屋行き 自然園下 歩3分）

プログラム・参加申し込み等 は、後日JOMA ホームページ、Facebookページ等でお知らせします。

ホームページ (<http://www.joma.jp/>) Facebookページ (<http://fb.me/JOMA.Office>)

※ネット会議にご参加いただく宣教師の方々には、JOMAご加盟の教団・団体を通じ、別途お願いさせていただきます。

お祈りください・・・

- ◆ アンテオケ宣教会
 - * この時代の中で、創立41年目以降の当宣教会の使命とあり方が主に導びかれ続け、主のみ力によって、なすべきことをなし続けられるように。
- ◆ イムヌエル綜合伝道団
 - * 11月第三週の宣教聖日礼拝、祈禱会において、恒例の世界宣教局のビデオを用いて集会が持たれます。世界宣教のために祈りの手が上げられますように。
 - * ・ザンビア(2名 医療宣教師):ジェンボクリニックの働きが守られますように。・ケニア(1名 医療宣教師)巡回が守られますように。・フィリピン(1家族)神学教育、地域の教会への霊的な援助がまもられますように。・香港(夫妻)邦人伝道が守られ、実を結びますように。・カンボジア(1名)伝道者の信仰が強められ、救霊の働きがすすめられるように。・台湾(1家族)台中の教会とともに、毎週持たれている台南日本語教会のために。・日本(夫妻・グローバルユースミニストリー)聖日の午後のバイブルタイムがこの働きを支える土台となるように。
 - * 国内外に牧師・宣教師を送ることができるように、教会が強められ、霊的な恵みで満たされるように。
- ◆ 基督兄弟団
 - * 本年8月13日～16日まで青年全国大会が開かれ、全国の兄弟団の青年たちが集いました。この中の分科会として、「海外宣教の今」をテーマに、アンテオケ宣教会・高橋めぐみ師を講師にお招きし、講演をいただきました。また、会場内に海外宣教のブースを設けて青年たちにアピールも行いました。分科会や海外宣教のブースに触れた青年たちが主の声を受けて世界宣教に立ち上がることができるようにお祈りください。
- ◆ 在欧日本人宣教会
 - * 8月初旬にエジンバラで開催された第35回ヨーロッパキリスト者の集いに、在欧から5名が参加し、多くの方々との交わり、奉仕の機会がありました。
 - * 今後の企画を覚えてお祈りください。またみなさんの周りの方々にお知らせください。これからも欧州と日本の教会を繋ぐ存在でありたいと思います。
 - ・9月21日(金)-22日(土):奥多摩でブリッジビルダーズリトリート
 - ・10月20日(土):ミュンヘンの安藤廣之先生をお迎えし、都内で欧州宣教祈禱会
 - ・11月23日(金)-24日(土):軽井沢でERFリトリート(ヨーロッパからのリターニーの集い)〈在欧協催企画〉
 - ・12月1日(土):都内で在欧クリスマス会

JOMA協力会員へのご参加のお願い

2018年度は、各宣教の地での戦いにある先生方にとって、また、背後にある宣教団体・教派団体や多くの教会の皆様にとって、JOMAがより意義のあるネットワークや情報をご提供する「活動するJOMA」へと変革をする年と考えております。そのために、さらなる必要を満たすべく、JOMA規約第5条に基づき、協力会員(個人:年会費12,000円)を募集いたします。つきましては、皆様ご自身、また、周囲の方で、世界宣教に重荷を持つ個人の方の積極的な入会をお誘い申し上げます。入会ご希望の方は、JOMA事務局まで、お問い合わせ下さい。(e-Mail: office@joma.jp)

(参考)JOMA規約 第5条の2: 協力会員とは、個人において世界宣教に重荷を持ち、JOMAの活動に協力及び支援をする者とする。総会にはオブザーバーとして参加し、議決権、選挙権および被選挙権を持たないものとする。

なお、引き続き正会員としての加盟団体も募集いたします。海外宣教をおこなっている宣教団体、教派団体が、共に主に在って一つの戦いを勝ち取るために、より強固なネットワークを構築すべく、もし未加入の団体をご存じの場合は、積極的な入会をお誘い下さい。

今後も引き続き、お祈りをお願いいたします。

日本ウィクリフ聖書翻訳協会 創立50周年感謝会のお知らせ

主のチャレンジに応えた若者たちにより1968年にスタートした日本ウィクリフは、以来、主の恵みと祝福を受け、多くの教会・兄弟姉妹の祈りと献身に支えられて50年の歩みを重ねて参りました。共に歩んでくださっている皆様と主に感謝し、新たなチャレンジの時として感謝会をもたせていただくことになりました。共に主の宣教の業に参加する特権と喜びを感謝しつつ、お知らせいたします。

日時: 2018年11月10日(土)

第1部 11:00 - 12:00 "Last 50 years"

第2部 14:00 - 15:30 "Next 50 years"

会場: お茶の水クリスチャンセンター(OCC)
8F チャペル

入場無料(席上献金あり)

※第2部の後、ささやかな茶菓の用意があります。

JOMA 宣教 ネットライブ・コンサートのお知らせ

ソプラノ歌手 坂井田真実子姉を迎え、「類いまれな賛美の証しが、世界の各宣教地をライブに繋ぐコンサート」と称し、ソプラノ賛美コンサートを行います。これは、海外の宣教地各地にネット中継をして歌声を届けると同時に、第一部と第二部に分け、中間に「JOMA(宣教地)タイム」を設け、ネット会議システムを介して現地2~3か所からの声を主会場で聞き、歌の感想や現地の生の声を、主会場の観客にも伝えられるような、ネットライブ・コンサートにいたします。

日時: 2018年12月6日(木) 19:00-21:00

主会場: お茶の水クリスチャンセンター(OCC) 8階 チャペル
 プログラム・参加申し込み等 は、後日JOMA ホームページ、Facebookページ等でお知らせします。

坂井田真実子プロフィール

国立音楽大学大学院修了。ロータリークラブより財団奨学生としてイタリア留学。伊セギツィ国際ソリストコンクール2位。二期会公演『こうもり』アデーレ等で出演。文化庁 新進芸術家在外派遣員としてウィーンへ留学。『メサイア』『ヨハネ受難曲』他、多くのキリスト教曲のソリストを経験。二期会会員。日本同盟教団 和泉福音教会会員。インマヌエル富士見台キリスト教会での証しと賛美のコンサートで好評を得、その後望まれて賛美歌の指導をする会を定期的に開催。2016年、病で下半身不随となるも「病を得、自分で動けなくなって、神様を近く感じる事ができた」と、神に感謝をし続けた。現在は後遺症と戦いながらもステージに復活し「奇跡のソプラノ」と言われている。

※「JOMA(宣教地)タイム」にご参加いただく宣教地の方は、別途加盟各団体を通じて、お願いさせていただきます。

◆JOMA Facebook ページと、事務局新メールアドレスのご案内◆

Facebookページを取得いたしました。URLは以下の通りです。

<http://fb.me/JOMA.Office>

従来のホームページ(<http://www.joma.jp/>)と併用し、今後、適宜情報を掲載・発信してまいります。

新メールアドレス: office@joma.jp (旧アドレス jomaofficekanda@gmail.com でもしばらくは届きます)

